



Title	米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 軍用地問題 (収用、賃貸、解除保証) 3(調査報告 外務省外交史料館レファレンス番号 : H220206)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(1)No.1 公開日 : 平成22年7月7日 外務省外交史料館管理番号 : A'3.0.0.7-1(117) CD・DVD番号 : H22-001
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43640
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

調查報告

(回覧番号 2218) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (機密・秘の朱印) 秘 無期限	符号表示 略 平 第 211 号	※ 総第 03 144 号 ※ 昭和 年 月 日 時 分 秒 45.10.3 18.47
大至急・至急・普通・LTF		※ 発電係

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米オ一課長	主管局部課(室)名 アメリカ局北米オ一課 起案 昭和45年10月3日 起案者 安藤 電話番号 448
---	-------------------------------	---

協賛先
米保課長
全米課長

在 沖繩 高嶺 臨時代理大使 代理
総領事 代理

電 在 大使 臨時代理大使 代理
報 総領事 代理

件名 防衛施設庁及び法務省の施設・区域・関係、
調査団派遣

1. 施設・区域の境界状況、施設・区域
の利用状況等の予備的調査のため、
防衛施設庁調査団(団長 鋼崎
施設調査官等総計17名)は8日から
28日まで貴地に訪問する。右調査団

代
送
原
漢

字
済

(※印内は電報係)

(昭和四二七一改正)

GB-1

は調整班(4名)、北部班(2名)、中部
1班(2名)、同2班(2名)、同3班(2名)、
南部班(2名)、水域班(1名)、資料班
(2名)からなり、調整班のみが8日
[redacted] 夫及着
[redacted] 他班は14日に当地港の
予定であり、実際に基地の立入りを
調整班が貴地表部及び沿岸沖繩軍務局と共に事前に米側と協定
するのは14日以降各班により行な
う。(貴地着7時15分に追電する)
[redacted]
[redacted]
[redacted]
一行の滞在中の運搬手段につ
ては同調査団にて借りあげることに
しているが、空港出迎え、宿舎予約等
なるべく便宜供与ありたい。
2. 法務省 枇杷田民事局オ一課
長ほか2名及び対策庁担当参事官

GB-3

外務省

計4名の調査団が8日から17日まで貴地を訪問する。

右調査団は臨時土地調査^班との連絡が主たる任務であるが、若干の米軍基地へ立ち入り(施設等調査団と同行の予定)、今後の土地調査の参考とするため、米側が測量の際に使用した基準点等を確認することとしており、この点で米側との調整を要するので前記^班調整^班の作業の際はこの点も含め米側と協議した。

(なお、本件調査団については、対策庁沖縄事務局法務課^{課長}睦地係長が便宜供与を担っている)

3. 米側に対しては、9月中旬概要を説明し、さらに2日在京米大使館及び在日米軍を通じて、本件調査団の目的構成、視察基地等詳細説明すむが、米側の内部連絡不充のため受け入れ体制がなく、8日出発を12日まで

延期に付て如何と要請越している。

在京米大使館^{にて}

この点については、8日に米側がクルー^{クルー}調整と任務とを打ち明け、8日及び9日^は米側^の調整^班と米側との調整を要する。

対策庁沖縄事務局、琉政側との打合せが大半となるが、米側との打合せは何時にても12日以内とする。

この点で説明し、同大使館も右の調整^班と米側との調整を要する。米側も米側との調整を要する。何れにしても5日にはこの点について打ち合わせが完了した。

ついては、貴地に^{ついて}も急のため前述の取手等とを説明の上、対策^班調査団が予定どおり8日に出発すること

につき米側の了解と打合せが完了した。

(関係資料送付済)